

を明らかにした。

大村知事は「被災地の復興を進めるため、できるだけ早く設計に取り掛かりたい」と述べた上で、手続きが簡便な仮置き場として早期に利用する考えを示した。地元住民の理解を得るため、県独自の安全基準を設けるとしている。

県は、中部電力碧南火力発電所（碧南市）の敷地内に処理施設を新設する方向で中部電と調整中。ほかにトヨタ自動車など複数の企業への受け入れ要請も検討している。

知多市の処分場は、大村知事が管理者の名古屋港管理組合が所有する埋め立て地。容量がいっぱいになり、2010年に埋め立てを終了したが、今回、一部を掘り返して別の処分場に運搬し、約50万トのがれきを受け入れる。

一方、大村知事は会見で「桁外れの量なのに、被災地に処分場を設置するなど、早期にがれきを処理するための決断ができないのか」と政府の対応を批判した。

震災がれき

受け入れに新施設

愛知県 知多市に整備方針

愛知県の大村秀章知事は24日、県庁で記者会見し、知多市にある「名古屋港南5区廃棄物最終処分場」の

一部（約23畝）に、受け入れを検討している震災がれ

きの仮置き場と焼却施設、

最終処分場を整備する方針

を明らかにした。